

## 新栄商店街アーケード空間に関する歴史的変遷\*

清水 俊貴<sup>\*1</sup>, 仲地 唯治<sup>\*1</sup>

## Historical Transition of Shinsakae Shopping Arcade Space

Toshitaka SHIMIZU<sup>\*1</sup> and Tadaharu NAKACHI<sup>\*1</sup><sup>\*1</sup> Faculty of Engineering, Department of Architecture and Civil Engineering

Shinsakae Shopping Street Arcade is a modern all-covered arcade that was built for the first time after the war in central Fukui City. The Shinsakae Shopping Street, where the arcade still exists, is located near the west exit of JR Fukui Station. There are many wooden buildings facing the alleys less than 4m without changing the basic appearance, but in recent years, the age of the buildings and arcades themselves has become a problem. The purpose of this study is to understand the historical transition of the arcade and the Shinsakae shopping district, and the current situation of the Shinsakae shopping district arcade, through actual measurement surveys of the arcade, interviews with people involved in the shopping district, or literature and materials.

**Key Words** :Fukui City, Shinsakae syopping street, Arcade, Renovation, Public space, Histrical transition

## 1. はじめに

新栄商店街アーケード<sup>(1)</sup>は福井市中心市街地にて戦後初めて建設された全蓋式<sup>(2)(3)(注1)</sup>の近代アーケード<sup>(注2)</sup>である。

アーケードが現存する新栄商店街は JR 福井駅西口近くに、中心市街地商業地のさらに中心に位置する。戦災や震災によるダメージが大きかった福井市において、いち早く復興したエリアである。商店街の成立から基本的な姿を変えることなく 4m 未満の路地に面して木造建築物が密集しているが、近年は建物やアーケード自体の築年数の経過等が問題となってきた。一方、福井市中心市街地では近年、2024 年北陸新幹線金沢-敦賀間の開業を見越した福井駅並びに駅周辺地区の再開発が進行中である。

近代アーケードに関する先行研究には、辻原らによる温熱環境、歴史的変遷、原型としての日覆いという各視点に関する一連の研究<sup>(2)(4)(5)</sup>、平栗らによる音環境に関する研究<sup>(6)</sup>、中島らによる撤去動向と実態に関する研究<sup>(7)</sup>、築根らによるコストや利点<sup>(8)</sup>、滞留行為<sup>(9)</sup>、歩行者空間<sup>(3)(10)</sup>などの一連の研究、大沼らの周辺建築物との関わり合いに関する研究<sup>(11)</sup>、高須らの天文館アーケードの空間特性に関する研究<sup>(12)</sup>などがある。

新栄商店街における既往の研究として、野嶋らによる小規模賃貸店舗の展開特性に関する研究<sup>(13)</sup>、原田らによる空き地や空き店舗の活用に関する研究<sup>(14)</sup>、下中らによる衰退要因に関する研究<sup>(15)</sup>がある。また近藤による経営学の視点からの持続活性化のための研究<sup>(16)</sup>があるが、新栄商店街の全蓋式アーケードそのものを対象とした、歴史的経過や商店街店舗との関わり合い、今後の持続性の有無などを研究した例はみられない。

本研究は、アーケードの実測調査、商店街関係者に対するヒアリング、あるいは文献や資料により、アーケードおよび新栄商店街の歴史的経過と、新栄商店街アーケードの現在の状況を把握することを目的とする。

\* 原稿受付 2022 年 4 月 28 日

<sup>\*1</sup> 工学部 建築土木工学科

E-mail: shimizu-t@fukui-ut.ac.jp

また将来的な目標は、上記に挙げた近代アーケードに関する先行研究や、新栄商店街を事例とした先行研究の成果を踏まえつつ、全国に存在する全蓋式アーケード空間との比較や、近年の商店街アーケードの改修や撤去事例の調査・検討を通じ、今後に予想される新栄商店街アーケードのリノベーションの方向性を探ることにある。

## 2. 新栄商店街アーケードの歴史的経過

Fig.1 において、新栄商店街アーケード成立の歴史的経過を示す写真を記載する (Photo.1～Photo.7)。写真は文献や資料に残るもの、あるいは新栄商店街関係者提供の写真など出展根拠が確実なものとした。

新栄商店街は戦災により消失し空地となった旧福井地方裁判所跡地を闇市対策として分譲し、店舗立地を可能とすることで、1950年に編成された<sup>(15)</sup>。編成から3年後の1953年にはアーケード設置計画に関する記事が当時の新聞記事に掲載されている<sup>(17)(註3)</sup>。その後4年を経て新栄商店街アーケードの竣工式が1957年7月1日に行われている<sup>(18)</sup>。大きな節目として1963年の38豪雪における記録的な大雪への対応がある。除雪のために屋根に穴を開け多量の積雪をアーケード下の道路へ落として融雪したという<sup>(註4)</sup>。その後屋根開口の補修対応等、何度かの改修が行われ現在の姿になった(Photo.6)(Photo.7)。アーケード成立から現在までの経過を表 Fig.2 にまとめた。また Fig.1, Fig.2 を基にアーケードの経過について3つの区分を設定した。

- ① アーケード設置以前 (1950～1956)：商店街関係者による、アーケード設置以前の新栄商店街を撮影した写真である。1階店舗部分が道路に開いた露店状の店舗形態であること、長屋状の建物が道路沿いに並んでいることが確認できる(Photo.1) (Photo.2)。
- ② アーケード設置 (1957～1962)：アーケード竣工当時に掲載された商店街の広告写真である。現在のアーケード空間と比較して、屋根面まで見通せる開放的な形状であったことが確認できる(Photo.3)。
- ③ アーケード改修から現在 (1963～2022)：1963年の昭和38年豪雪当時の新聞記事<sup>(19)</sup>や撮影された写真からアーケード屋根面の一部に穴が空いていること、アーケード下の道路面に多量の積雪があることが確認できる (Photo.4)。これは新栄商店街関係者へのインタビューでも、アーケード屋根雪下ろしの際に、アーケードの側面が家屋に囲まれており雪のおろし場がないため、屋根材を部分的に壊し、直下の道路面に雪を落としたとの発言を裏付ける<sup>(註4)</sup>。Photo.5は1990年前後の写真である。2022年現在のPhoto.6とほぼ同じ空間となっている。前述した38豪雪による屋根面改修、近隣商店街との競合などから何度かの改修工事があり、現在の空間となったとのインタビューでの証言があった<sup>(註4)</sup>。Photo.7は2022年現在のアーケード屋根面である。屋根上にメンテナンスデッキ、屋根面に開閉式ハッチが確認できる。

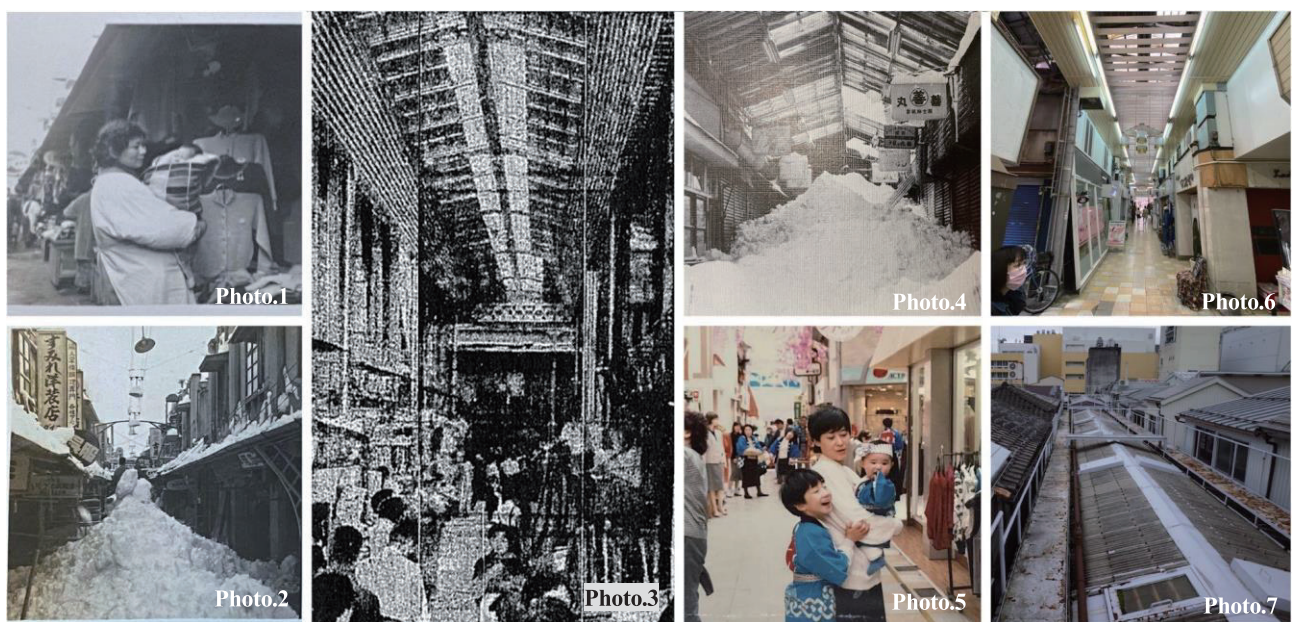


Fig.1 アーケード空間の歴史的経過

## 新栄商店街アーケード空間に関する歴史的変遷

西暦	元号	事象	参考写真	書籍	引用頁	
1950	S25	新栄商店街編成		(1)	5	アーケード設置以前
1952	S27.10	新栄商店街（協同組合）		(2)	91	
1953	S28.2	福井優良店会と新栄商店街チケット販売始める		(2)	91	
1953	S28.8.31	アーケード設計計画について朝日新聞北陸版掲載 ※1	Photo.1	(3)	896	
1954	S29.12	新栄商店街（協）200万円のネオンアーチ3基完成点灯式行	Photo.2	(1)	92	アーケード設置
1957	S32.7	市内初の大アーケード完成（一部） ※2	Photo.3	(1)	8,38	
1959	S34.12	福井市が専門診断員による呉服町、呉服町銀座、新栄商店街の3商店街を診断		(1)	8	
1963	S38.2	38豪雪により屋根に穴を開け、道路に積雪を落として融雪	Photo.4	インタビュー		
	S38頃	アーケード改修 ・屋根補修の上落雪用開口部設置 ・メンテナンスデッキの設置 ・カラーテラゾータイルによる舗装化 ・天井ルーバー設置 ・その他リニューアル		インタビュー		アーケード改修
	S38	振興組合へ移行		(1)		
1967	S42.11	新栄商店街診断報告書（商工会議所）		(1)		
1978	S53.9	新栄地区商店街診断（県）		(1)		
1983	S58.11	SLと風景展		(1)	40	アーケード改修
1990年代		再開発計画の浮上	Photo.5			
2022			Photo.6、Photo.7			
					発行	出版
書籍名		(1) 市商連創立50周年記念誌 50年のあゆみ ～過去・現在そして未来へ～ (2) 写真でみる順化地区史 (3) 福井市史 資料編 p.896		社団法人 福井市商店街連合会 ふるさとおこし順化地区委員会		フェニックス出版 H3.3.31
		※1 理事 浅田栄一氏、60件600万円、長さ300mのジュラルミン製、福井信用金庫を通じ中小企業金融公庫から借受との報道。 ※2 (1)P38より、福井市は昭和27年以降商店街の共同施設に対し助成を行ってきたが昭和34年に助成に関する規則を制定、この中でアーケードも対象にするとした。				

Fig.2 新栄商店街アーケードの歴史的経過

## 3. アーケード空間の変遷

### 3.1 アーケードの実測調査

新栄商店街の現況を確認すべく、実測調査を行いアーケード屋根面を支える柱位置図を作成した(Fig.3)。図面作成するにあたり福井市役所建設部道路管理課による道路位置図を参考とした。

アーケード両側建物は木造2階建の長屋式の建物が基本となっている。今回調査および柱位置の図面化により確認できた点を以下に記す。

- ① アーケードの道路（店舗）に沿って柱が並ぶ桁方向に、柱位置の規則性がない。
- ② 道路直交方向の柱位置間は道路幅員 4000mm にてほぼ全ての箇所にて 3350mm である。  
道路境界より約 300mm 道路中心線に寄った位置にて柱芯がある。
- ③ 床面には道路中心を基準に 300 角テラカラータイルが 9 列（幅 2700mm）敷設されている。
- ④ 床面より高さ 4800mm の位置を下端として、アルミ製天井ルーバーおよび、照明器具が設置されている。

### 3.2 アーケード空間の変遷

現在の新栄商店街アーケード空間の実測調査、および Fig.1 の写真を比較確認し、アーケードの変遷を時系列とみなせる順に、以下列記する。

- ① アーケード設置以前の店舗の並び：現在のアーケード設置以前の店舗が通りに向かって開放的なつくりであったことが写真から確認できる。（Photo.1）（Photo.2）。
- ② アーケード設置以前の道路に張り出した庇：1 階店舗入り口より道路に向かって張り出した庇を持っていたことが確認できる。庇により 1 階の店舗部分と 2 階の壁面が明快に区切られている。冬の積雪時には道路中央に雪を積み上げて底下に歩行幅を確保していることから、片側式アーケードのような使い方をしていたと考える（Photo.1）（Photo.2）。
- ③ アーケードの設置による庇の撤去と看板の設置：アーケード設置により以前に存在した庇が撤去されている。店舗入り口上面の庇があった箇所に看板が設置されている。1 階と 2 階を分けていた庇がなくなること立平面全体が目立つようになっている（Photo.3）。



- ④ アーケード設置時の柱位置：実測調査による確認できた柱位置の不規則性について、Photo.3 のアーケード竣工時の写真からも確認できる。写真より店舗前の道路に立つ柱が何本か確認できるが、規則性があるようにみえない。アーケード設置前年 1956 年に撮影された Photo.1, Photo.2 より、当時の店舗の並びが柱位置決定と関係があったと考える。
- ⑤ アーケード設置時の天井：現在取り付けられている金属製ルーバーや吊り下げ照明がなく屋根材まで見通すことができる高い天井である。屋根頂部の屋根材が採光を確保する半透明材となっている。なお現在天井には金属製のルーバーが設置されているが、ルーバーの隙間より設置時の屋根仕上げと考えられる部材が見える(Photo.3)。
- ⑥ 1963 年の 38 豪雪時の除雪対応による屋根材破壊：福井市内にて 2m を超える多量の積雪を記録した 38 豪雪時の除雪対応として、屋根面材を突き破り、直下の道路へ落雪させていることが確認できる。アーケードを構成する鉄骨造の積雪への許容積載荷重を考慮しての対応と考える。なお豪雪時の対応について、インタビューによる発言にて裏付けがあった<sup>注4)</sup>(Photo.4)。
- ⑦ 天井に金属製のルーバーの設置：アルミ製とおぼしきルーバー材による天井面が出現している。ルーバーによりアーケード設置時の屋根面材が見えにくくなっている。改修工事時期について未判明である (Photo.6) (Photo.7)。
- ⑧ 床仕上げ：アスファルト舗装から 300 角カラーテラゾータイル敷き仕上げへ変化している。改修工事時期について未判明である(Photo.5) (Photo.6)。
- ⑨ 屋根開口部：屋根面に開口ハッチが設置され、屋根と両側建物の境界上部にメンテナンスデッキが設置されている。インタビューでの発言にて、38 豪雪時の除雪対応で屋根面材を壊して落雪をおこなった経験から、後の改修工事の際に屋根に開口ハッチを設け、屋根上にメンテナンスデッキを付加したとのことである<sup>注4)</sup>(Photo.7)。
- ⑩ 各店舗立面の多様化：設置時写真ではアーケード屋根を支える柱が店舗前に立っている。店舗はアーケード空間に向けて開放的に商品が陳列されている。後年はガラス面のショーウインドウや壁面が各々迫り出し、店舗立面の多様化が進んでいる(Photo.3)(Photo.5) (Photo.6)。

上記①～⑩のアーケード空間の変遷モデル図および写真資料から推定される工事の年代について Fig.2 に記載する。

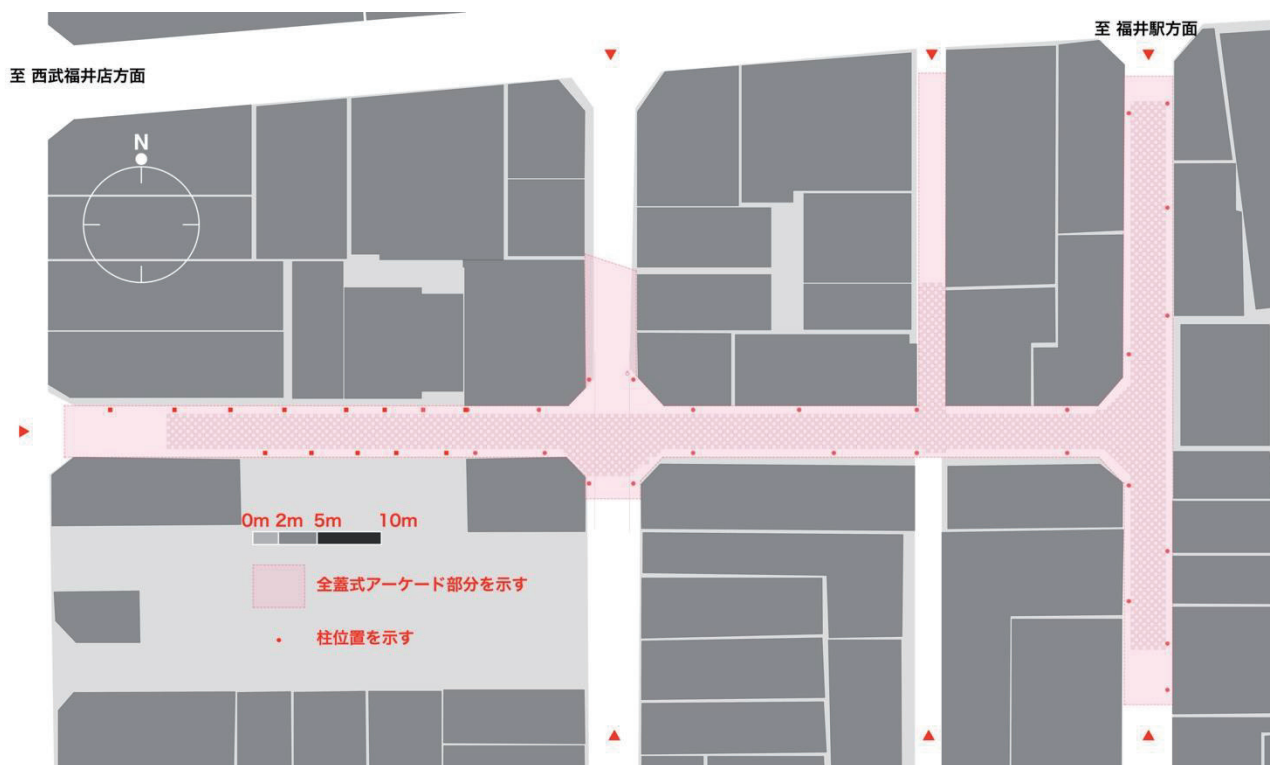


Fig.3 新栄商店街アーケード柱位置実測図

#### 4. 新栄商店街アーケードの現況からの検討点

新栄商店街は、福井市による福井駅・城址周辺地区市街地総合再生計画にて、特に低層木造建築物が密集し耐用年数が経過した建築物が多いエリアであることが指摘されている<sup>(20)</sup>。また、商店街関係者からも今後の商店街のあり方について議論が提起されている<sup>(21)</sup>。さらに、後述するように全国のアーケード商店街にてアーケードの存続の可否について様々な報告がなされている。福井駅前に進む再開発の流れの中で、アーケードの存続の是非を拙速に決定する前に、設置から現状までの歴史の変遷をまとめ、アーケードの現況を知ることが、今後の再開発に関する詳細な検討や議論を行う上での一助となると考える。以下、現状のアーケード空間の問題点や今後に向けての調査や検討を要する事項を記す。

- ① 構造的な観点：実測や目視などの調査から、現状の耐用年数、また耐震強度の向上を目的とした検討。
- ② 積雪への対策：前述した 1963 年の 38 豪雪以後も 1980 年の 56 豪雪、近年では 2018 年の豪雪を経験しており、アーケードにおける積雪への対応は、雪深い福井に存在するアーケードに必然ともいえる検討点である。耐雪、除雪対策の検討。
- ③ 現況アーケード空間の景観的検討、リノベーションの可能性：上記 2 点の検討を反映した、耐震性やメンテナンス性を有するアーケード空間設計。

#### 5. まとめ

本研究では、現時点で入手し得うる新栄商店街アーケードに関する文献史料や写真、関係者へのインタビューから、新栄商店街アーケード空間の歴史と現況、将来的な問題点を統合的に捉えることを試みた。今後に向けて、現況のアーケードを取り巻く様々な問題点の明確化、その解決のための調査や検討が必要と考える。全国各地におけるアーケードを持つ商店街の持続性を生み出す試みとしては、さらなるアーケードの増築<sup>(12)</sup>もあれば、アーケード撤去による商店街の再生<sup>(22)</sup>、アーケードの存続改修を行った例<sup>(23)</sup>もある。全国のアーケードを持つ商店街事例との比較検討なども、アーケードが存在する新栄商店街、福井市中心部の活性化に寄与すると考える。

#### 謝 辞

本研究にあたり、新栄商店街関係者の皆様、まちづくり福井株式会社様、大森望央様のご協力を頂いた。ここに記し謝意を評したい。

#### 注と参考文献

##### 参考文献

- 1) 建設省：アーケードの取扱について、昭和 30 年 2 月 1 日付建設省発住第 5 号、1955.2
- 2) 辻原万規彦、他 3 名：西日本における都市のアーケードの成立および発展過程、日本建築学会計画系論文集、第 524 号、pp.215-212、1999.10
- 3) 築根広明、北原理雄：滞留行為とその経年比較からみた全蓋式アーケード内部の歩行者行動、日本建築学会計画系論文集、第 618 号、pp.81-87、2007.8
- 4) 辻原万規彦、他 3 名：温暖多照地域における全蓋式アーケードの気温分布性状、日本建築学会計画系論文集、第 508 号、pp.43-50、1998.6
- 5) 辻原万規彦、藤岡里圭：アーケードの原型としての日覆いに関する研究、日本建築学会計画系論文集、第 596 号、pp.85-92、2005.10
- 6) 平栗靖浩、他 4 名：アーケード街路の音環境 -熊本市・長崎市中心市街地における実測調査-、日本建築学会環境系論文集、第 604 号、pp.1-7、2006.6
- 7) 中島玲於奈、他 2 名：地方都市の中心市街地商店街における善が意識アーケード撤去の動向と実態に関する研究、日本都市計画学会学術研究論文集、第 43-3 号、pp.439-444、2008
- 8) 築根広明、北原理雄：商店街における全蓋式アーケードのコストと効果 -千葉県柏市・二番街を事例として-、2004 年度日本建築学会関東支部研究報告集II、pp.281-284、2005.3

- 9) 築根広明, 北原理雄: 滞留行為とその経年比較からみた全蓋式アーケード内部の歩行者行動 -千葉県柏市・二番街を事例とした調査を通じて-, 日本建築学会計画系論文集, 第 618 号, pp.81-87, 2007.8
- 10) 築根広明, 北原理雄: 駅前地区の歩行者専用空間網形成と全蓋式アーケードの役割 -千葉県柏市・柏二番街と柏駅駅前地区を事例に-, 日本建築学会計画系論文集, 第 645 号, pp.2443-2450, 2009.11
- 11) 大沼邦夫, 他 2 名: 東京のアーケード商店街における都市環境と側面建築物の研究 (その 1) -東京都内 37 ヶ所のアーケードを事例として-, 日本建築学会学芸大会学術講演梗概集 (東北), pp.1061-1062, 2009.8
- 12) 高須八千代, 他 2 名: 天文館アーケードの空間特性に関する研究, 日本建築学会九州支部研究報告, 第 54 号, pp.389-392, 2015.3
- 13) 野嶋慎二, 玉置伸吾: 小規模賃貸店舗の展開特性とその集積街区の受け皿機能に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 第 530 号, pp.193-200, 2000.4
- 14) 福井大学原田研究室, 福井市都市戦略部都市整備室: H26 年度新栄地区共同研究報告書, 2015.3
- 15) 下中雄一, 下川勇: 商店街の衰退現象と衰退期の活性化策の関係について, 日本建築学会技術報告集, 第 67 号, pp.1476-1481, 2021.10
- 16) 近藤健一: 商店街の持続的活性化のために, 経営研究 60(2), 93-111, 2009.7
- 17) 福井市史 資料編, p.896
- 18) 福井新聞記事による, 1957.7.1 付
- 19) 福井新聞記事による, 1963.1.26 付
- 20) 福井市による福井駅・城址周辺地区市街地総合再生計画, 2018
- 21) 「新栄商店街「考える会」発足 初会合 老朽化対策 初会合」, 中日新聞記事による, 2021.4.28 付
- 22) 井出大悟, 他 2 名: 北九州市におけるアーケード撤去の実態と魚町サンロード商店街アーケード撤去計画に関する考察, 日本建築学会九州支部研究報告, 第 52 号, pp.229-pp.232, 2013.
- 23) 山口あゆみ, 名古屋円頓寺商店街の奇跡, 講談社+α 新書, 2018

## 注

注1) 本稿では, 建設省通達「アーケードの取扱について」<sup>(1)</sup>中の「アーケードの設置基準」にある「道路全面又は大部分をおおうアーケード」を「全蓋式アーケード」と呼び, 「道路の一侧または両側に設けるアーケード」を「片側式アーケード」と呼ぶ辻原<sup>(2)</sup>ら, 築根<sup>(3)</sup>らの呼称を参考とした。

注2) 本稿では, 「アーケード」は「都市の中であって, 公道上に設けられる屋根付きの歩道」を指し, この内, 「戦後登場した構造体に主として鋼材を使用し, 長期間の供用を目的としたアーケード」「近代アーケード」と称する辻原<sup>(2)</sup>, 築根<sup>(3)</sup>らによる呼称を参考とした。

注3) 文献<sup>(17)</sup>に新栄商店街のアーケード設置計画として, 1953.8.31 付朝日新聞北陸版の記事が収録。

注4) まちづくり福井主催, 未来ラボにて行われた「新栄の未来を考える会」にて新栄商店街地権者, 商店主へのインタビューによる, 2021.11.8

## 写真出典

Photo.1, Photo.2, Photo.5: 大森望央氏提供。なお 1,2 は 1956 年の撮影。5 は 1990 年の撮影である。

Photo.3: 福井新聞 1957.06.29, 新栄商店街広告より

Photo.4: 豪雪を記録する, 福井新聞社, 1981, p.125

Photo.6, Photo.7: 清水による撮影

(2022 年 8 月 4 日受理)